

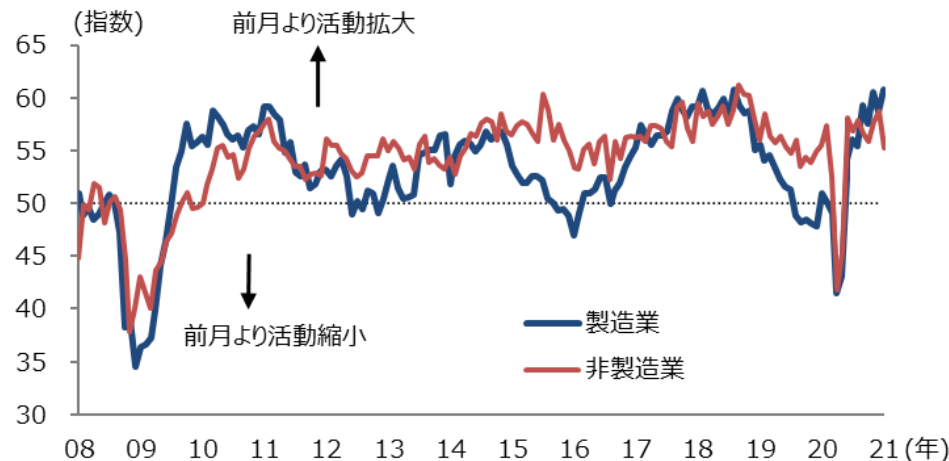
米国

ISM景況指数（2021年2月）

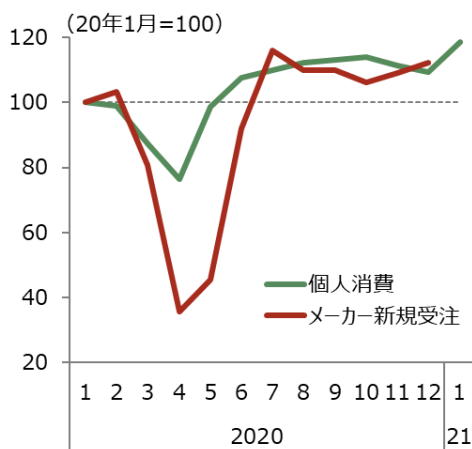
米企業景況感は高水準を維持、供給網の混乱・仕入価格高騰が課題

政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 総合指数



2 個人向け耐久財の消費・受注



3 仕入れ価格指数・物価上昇率



評価ポイント

今回の結果

- 21年2月のISM製造業景況指数（3/1公表）は60.8と、前月から上昇し、9カ月連続で活動拡大を示す50を上回った。
- 製造業指数を構成する5項目のうち、新規受注（64.8）、生産（63.2）、雇用（54.4）、入荷遅延（72.0）で上昇した。在庫（49.7）は低下した。サブ項目である輸出（57.2）も上昇した。業種別では、印刷関連、石油・石炭を除く、16業種が活動拡大を報告した。
- 21年2月のISM非製造業景況指数（3/3公表）は55.3と、前月から低下したものの、同じく9カ月連続で活動拡大を示す50を上回った。
- 非製造業指数を構成する4項目のうち、入荷水準（60.8）が上昇した一方、ビジネス活動（55.5）と新規受注（51.9）、雇用（52.7）が低下した。業種別では、不動産・賃貸を除く17業種が活動拡大を報告した。

基調判断と今後の流れ

- 米国企業の景況感が高水準を維持している。背景には、国内新規感染者の減少やワクチン接種進展に伴う活動抑制の緩和や内外経済の回復による需要増加が考えられる。2月に南部で発生した寒波という一時要因が特に非製造業の指数を押し下げたが、企業からは総じて楽観的な回答が多かった。
- 一方で、企業の仕入れ担当者からは陽性者隔離による人手不足や物流の遅れなど、供給制約による悪影響を指摘する回答も目立った。現金給付第二弾の効果もあり個人向け耐久財の消費額やメーカー新規受注額は増加傾向にあるが（図表2）、生産が追い付かなくなる可能性がある。
- また、アルミニウムや石油系製品など多くの原材料の仕入れ価格が上昇しており、製造業の仕入れ価格指数は08年7月以来の高水準となった（図表3）。仕入価格の上昇は企業収益を圧迫しかねないうえ、今後物価押し上げ圧力が強まれば、消費控えによる企業景況感の下押しも懸念される。